



L コマンド

この章では、コマンド名が L で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

lldp holdtime

使用しているデバイスによって送信される情報を、受信デバイスが廃棄するまでに保持する時間の長さを設定するには、**lldp holdtime** コマンドを使用します。保持時間設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp holdtime seconds

構文の説明	<i>seconds</i>	秒単位の保持時間。範囲は 10 ~ 255 秒です。
-------	----------------	----------------------------

デフォルト	120 秒
-------	-------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション (config)
----------	----------------------------

サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 ネットワーク オペレータ VDC 管理者 VDC オペレータ
---------------	---

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、 switchto vdc コマンドを使用します。 このコマンドにライセンスは必要ありません。
------------	--

例	次に、Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) 保持時間を設定する例を示します。
---	---

```
switch(config)# lldp holdtime 180
switch(config)#
```

次に、LLDP 保持時間設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no lldp holdtime 180
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	lldp reinit	任意のインターフェイス上で LLDP を初期化する際の遅延時間を秒単位で指定します。
	lldp timer	LLDP アップデートの送信頻度を秒単位で設定します。
	show lldp timers	LLDP 保持時間、遅延時間、およびアップデート頻度設定を表示します。

lldp receive

インターフェイス上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) パケットの受信をイネーブルにするには、**lldp receive** コマンドを使用します。LLDP パケットの受信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp receive

no lldp receive

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、**switchto vdc** コマンドを使用します。

デバイスで LLDP をグローバルにイネーブルにしていることを確認します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイス上での LLDP パケットの受信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 6/3
switch(config-if)# lldp receive
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

次に、インターフェイス上での LLDP パケットの受信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 6/3
switch(config-if)# no lldp receive
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

■ lldp receive

関連コマンド

コマンド	説明
lldp transmit	インターフェイス上での LLDP パケットの送信をイネーブルにします。
show lldp interface ethernet	インターフェイス上で LLDP の設定を表示します。

lldp reinit

任意のインターフェイス上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) の遅延時間を設定するには、**lldp reinit** コマンドを使用します。LLDP の初期化設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp reinit seconds

構文の説明

seconds 秒単位の初期化時間。指定できる範囲は 1 ~ 10 です。

デフォルト

2 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、**switchto vdc** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、LLDP の初期化の遅延時間を設定する例を示します。

```
switch(config)# lldp reinit 6
switch(config)#
```

次に、LLDP の初期化設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no lldp reinit 6
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp holdtime	ユーザのデバイスから送信された情報が、受信側デバイスで廃棄されるまでに保持される時間を秒単位で指定します。
lldp timer	LLDP アップデートの送信頻度を秒単位で設定します。
show lldp timers	LLDP 保持時間、遅延時間、およびアップデート頻度設定を表示します。

lldp timer

Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) のアップデートの送信頻度を設定するには、**lldp timer** コマンドを使用します。LLDP のアップデートの送信頻度設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp timer seconds

構文の説明

seconds 秒単位の送信頻度。範囲は 5 ~ 254 です。

デフォルト

30 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、**switchto vdc** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、LLDP のアップデートの送信頻度を設定する例を示します。

```
switch(config)# lldp timer 45
switch(config)#
```

次に、LLDP のアップデートの送信頻度設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no lldp timer 45
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
lldp reint	任意のインターフェイス上で LLDP を初期化する際の遅延時間を秒単位で指定します。
lldp holdtime	ユーザのデバイスから送信された情報が、受信側デバイスで廃棄されるまでに保持される時間を秒単位で指定します。
show lldp timers	LLDP 保持時間、遅延時間、およびアップデート頻度設定を表示します。

lldp tlv-select

Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) パケットで送受信するタイプ、長さ、および値 (TLV) の説明を設定するには、**lldp tlv-select** コマンドを使用します。TLV 設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
lldp tlv-select [dcbxp | management-address | port-description | port-vlan | system-capabilities
| system-description | system-name]
```

```
no lldp tlv-select [dcbxp | management-address | port-description | port-vlan |
system-capabilities | system-description | system-name]
```

構文の説明

dcbxp	(任意) DCBXP の TLV を指定します。
management-address	(任意) 管理アドレスの TLV を指定します。
port-description	(任意) ポート説明の TLV を指定します。
port-vlan	(任意) ポートの VLAN ID TLV を指定します。
system-capabilities	(任意) システム機能の TLV を指定します。
system-description	(任意) システムの説明の TLV を指定します。
system-name	(任意) システム名の TLV を指定します。

デフォルト

デフォルトでは、使用可能なすべての TLV がイネーブルです。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、**switchto vdc** コマンドを使用します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、システム機能の TLV をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# lldp tlv-select system-capabilities  
switch(config)#
```

次に、システム機能の TLV をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no lldp tlv-select system-capabilities  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show lldp tlv-select	LLDP TVL コンフィギュレーションを表示します。
show lldp dcbx	ローカルな DCBX 制御ステータスを表示します。
interface ethernet	

lldp transmit

インターフェイス上で Link Layer Discovery Protocol (LLDP; リンク層検出プロトコル) パケットの送信をイネーブルにするには、**lldp transmit** コマンドを使用します。LLDP パケットの送信をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lldp transmit

no lldp transmit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

デフォルト

イネーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC を切り替えるには、**switchto vdc** コマンドを使用します。

デバイス上で LLDP がグローバルにイネーブルになっていることを確認します。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイス上での LLDP パケットの送信をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 7/1
switch(config-if)# lldp transmit
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

次に、インターフェイス上で LLDP パケットの送信をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 7/1
switch(config-if)# no lldp transmit
switch(config-if)# exit
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>lldp receive</code>	インターフェイス上での LLDP パケットの受信をイネーブルにします。
<code>show lldp interface ethernet</code>	インターフェイス上で LLDP の設定を表示します。

locator-led

システムの LED を点滅させるには、**locator-led** コマンドを使用します。LED の状態をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
locator-led {chassis | fan f-number | module slot | powersupply ps-number | xbar x-number}
```

```
no locator-led {chassis | fan f-number | module slot | powersupply ps-number | xbar x-number}
```

構文の説明

chassis	シャーシの LED を点滅させます。
fan <i>f-number</i>	設定済みファン番号を表す LED を点滅させます。範囲はプラットフォームに依存します。? 範囲を表示します。
module <i>slot</i>	モジュールの LED を点滅させます。範囲はプラットフォームに依存します。? 範囲を表示します。
powersupply <i>ps-number</i>	電源モジュールの LED を点滅させます。範囲はプラットフォームに依存します。? 範囲を表示します。
xbar <i>x-number</i>	クロスバー モジュールの LED を点滅させます。範囲はプラットフォームに依存します。? 範囲を表示します。

デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
ネットワーク オペレータ
VDC 管理者
VDC オペレータ

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(2)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

システムのコンポーネント上の LED を点滅させるには、**locator-led** コマンドを使用します。LED を点滅させることによって、管理者はデータセンター内のコンポーネントを識別できます。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、モジュール 4 の LED を点滅させる例を示します。

```
switch# locator-led module 4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show locator-led status	システムのロケータ LED のステータスを表示します。

logging console

コンソールセッションでロギングメッセージをイネーブルにするには、**logging console** コマンドを使用します。コンソールセッションのロギングメッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging console [*severity-level*]

no logging console

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
-----------------------	---

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、コンソールセッションで重大度レベル 4 (警告) 以上を使用してロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 4
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show logging console</code>	コンソール ログ設定を表示します。

logging event

インターフェイス イベントを記録するには、**logging event** コマンドを使用します。

```
logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}
```

```
no logging event {link-status | trunk-status} {enable | default}
```

構文の説明	link-status	すべての UP/DOWN メッセージおよび CHANGE メッセージをログに記録します。
	trunk-status	すべての TRUNK ステータス メッセージをログに記録します。
	default	ロギングが明示的に設定されていないインターフェイスで、デフォルトのロギング設定を使用するよう、指定します。
	enable	ポート レベルのコンフィギュレーションを上書きしてロギングをイネーブルにするよう、指定します。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、インターフェイス イベントを記録する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging event link-status default
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show logging	ロギング ステータスを表示します。

logging ip access-list cache

Optimized ACL Logging (OAL; 最適化された ACL ロギング) パラメータを設定するには、**logging ip access-list cache** コマンドを使用します。デフォルトの設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging ip access-list cache {{entries num_entries} | {interval seconds} | {threshold num_packets}}
```

```
no logging ip access-list cache {{entries num_entries} | {interval seconds} | {threshold num_packets}}
```

構文の説明

entries <i>num_entries</i>	ソフトウェア内にキャッシュする最大ログ エントリ数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 1048576 です。デフォルト値は 8000 エントリです。
interval <i>seconds</i>	エントリが Syslog に送信されるまでの最大時間を指定します。指定できる範囲は 5 ~ 86400 です。デフォルト値は 300 秒です。
threshold <i>num_packets</i>	エントリが Syslog に送信されるまでのパケット一致 (ヒット) の数を指定します。指定できる範囲は 0 ~ 1000000 です。デフォルト値は 0 パケット (レート制限なし) です。したがって、デフォルトでは、パケット マッチ個数によってシステム ログがトリガーされることはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク 管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、ソフトウェア内にキャッシュする最大ログ エントリ数を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging ip access-list cache entries 200
switch(config)#
```

次に、エントリの Syslog への送信が発生する最大時間間隔を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging ip access-list cache interval 350
switch(config)#
```


次に、エントリの Syslog への送信が発生する最大パケット マッチ数を指定する例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# logging ip access-list cache threshold 125  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging ip access-list	IP アクセス リストのロギング ステータスを表示します。

logging level

指定した重大度以上の定義済みファシリティからのメッセージ ロギングをイネーブルにするには、**logging level** コマンドを使用します。定義済みファシリティからのロギング メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging level facility severity-level

no logging level facility severity-level

構文の説明

<i>facility</i>	適切なファシリティ (<i>facility</i>)。ファシリティについては、「システム メッセージ ロギング ファシリティ」(P.623) を参照してください。 同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、 all ファシリティを使用します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、重大度レベル 2 以上の AAA ファシリティからロギングメッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# logging level aaa 2  
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging level	ファシリティ ロギング レベル コンフィギュレーションを表示します。

logging logfile

システム メッセージを格納するログ ファイルの名前、およびそのファイルへのログ記録の対象となる最小重大度を設定するには、**logging logfile** コマンドを使用します。ログ ファイルへのロギングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

no logging logfile logfile-name severity-level [size bytes]

構文の説明

<i>logfile-name</i>	システム メッセージを格納するログ ファイルの名前を設定します。
<i>severity-level</i>	作成するメッセージ ログの重大度です。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されません。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
<i>size bytes</i>	(任意) ファイルの最大サイズを指定します。デフォルトのファイル サイズは 10485760 バイトです。設定可能範囲は 4096 ~ 10485760 バイトです。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、*logfile* と呼ばれるログ ファイルを設定してシステム メッセージを保存し、その重大度レベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile logfile 4
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show logging logfile</code>	ログ ファイルを表示します。

logging message interface type ethernet description

システム メッセージ ログに、物理イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイスの説明を追加するには、**logging message interface type ethernet description** コマンドを使用します。システム メッセージ ログで、物理イーサネット インターフェイスのインターフェイスについての説明の出力をディisableにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging message interface type ethernet description

no logging message interface type ethernet description

構文の説明

このコマンドには引数またはパスワードはありません。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

正しい VDC 内にいることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、システム メッセージ ログに、物理イーサネット インターフェイスおよびサブインターフェイスの説明を追加する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging message interface type ethernet description
```

次に、システム メッセージ ログで物理イーサネット インターフェイスの説明の出力をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal  
switch(config)# no logging message interface type ethernet description
```

関連コマンド

コマンド	説明
logging monitor	デバイスが指定された重大度とそれより上位の重大度のメッセージをモニタに記録できるようにします。
show logging monitor	モニタ ログ設定を表示します。

logging module

モジュール ログ メッセージをイネーブルにするには、**logging module** コマンドを使用します。モジュール ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging module [*severity-level*]

no logging module

構文の説明

<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 (デフォルト レベル) • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
-----------------------	---

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、モジュール ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging module	モジュール ロギング ステータスを表示します。

logging monitor

モニタ（端末ライン）にメッセージを記録するよう、デバイスをイネーブルにするには、**logging monitor** コマンドを使用します。

モニタ ログ メッセージをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging monitor [*severity-level*]

no logging monitor

構文の説明	<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
デフォルト	5	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション	
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	この設定は、Telnet セッションと SSH セッションに適用されます。 このコマンドにライセンスは必要ありません。	
例	次に、モニタ ログ メッセージをイネーブルにする例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# logging monitor switch(config)#</pre>	

■ logging monitor

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show logging monitor</code>	モニタ ログのステータスを表示します。

logging server

指定したホスト名または IPv4/IPv6 アドレスのリモート Syslog サーバを設定するには、**logging server** コマンドを使用します。リモート Syslog サーバをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging server host [severity-level [use-vrf VRF_name [facility {auth | authpriv | cron | daemon
| ftp | kernel | local0 | local1 | local2 | local3 | local4 | local5 | local6 | local7 | lpr | mail | news
| syslog | user | uucp}]]]
```

```
no logging server host
```

構文の説明

<i>host</i>	リモート Syslog サーバのホスト名または IPv4/IPv6 アドレス。
<i>severity-level</i>	(任意) 作成するメッセージ ログの重大度のレベルです。指定したレベルの数字より低いレベルのメッセージのログが作成されます。重大度レベルは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 0—emergency : システムが使用できない • 1—alert : 迅速な対処が必要 • 2—critical : クリティカルな状態 (デフォルト レベル) • 3—error : エラーの状態 • 4—warning : 警告の状態 • 5—notification : 通常であるが重大な状態 • 6—informational : 情報メッセージだけ • 7—debugging : デバッグ中にだけ表示
<i>use-vrf VRF_name</i>	(任意) VPN Routing and Forwarding (VRF; VPN ルーティングおよびフォワーディング) インスタンスを指定します。Cisco NX-OS Release 4.2 またはそれ以降のリリースでは、デフォルト VRF がデフォルトです。
<i>facility facility</i>	(任意) 発信ファシリティ (<i>facility</i>) を指定します。ファシリティについては、「システム メッセージ ログイング ファシリティ」(P.623) を参照してください。デフォルトの発信ファシリティは local7 です。

デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

■ logging server

例

次に、デフォルトの発信ファシリティを使用して、指定した IPv4 アドレスのリモート Syslog サーバを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.253
switch(config)#
```

次に、指定されたホスト名のリモート Syslog サーバで、重大度 5 以上のメッセージがログに記録されるように設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server syslogA 5
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging server	設定された Syslog サーバを表示します。

logging source-interface

リモート Syslog サーバの送信元インターフェイスをイネーブルにするには、**logging source-interface** コマンドを使用します。

送信元インターフェイスをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
logging source-interface loopback virtual_interface
```

```
no logging source-interface loopback virtual_interface
```

構文の説明	loopback ループバック インターフェイスをイネーブルにします。範囲は 0 ~ 1023 です。 virtual_interface				
デフォルト	なし				
コマンドモード	グローバル コンフィギュレーション				
サポートされるユーザーロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者				
コマンド履歴	<table><thead><tr><th>リリース</th><th>変更内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>4.0(1)</td><td>このコマンドが導入されました。</td></tr></tbody></table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。				
例	次に、Syslog サーバの送信元インターフェイスをイネーブルにする例を示します。 <pre>switch# configure terminal switch(config)# logging source-interface loopback 5 switch(config)#</pre>				

logging timestamp

ロギング タイムスタンプの単位を設定するには、**logging timestamp** コマンドを使用します。ロギング タイムスタンプの単位をデフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

no logging timestamp {microseconds | milliseconds | seconds}

構文の説明

microseconds	タイムスタンプの単位をマイクロ秒単位で指定します。デフォルトの単位は seconds です。
milliseconds	タイムスタンプの単位をミリ秒単位で指定します。
seconds	タイムスタンプの単位を秒単位で指定します。

デフォルト

なし

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者
VDC 管理者

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

例

次に、ロギング タイムスタンプの単位をマイクロ秒に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp microseconds
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプ コンフィギュレーションを表示します。